

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年3月16日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690800034
法人名	医療法人 三徳会
事業所名	グループホーム 希望の家
所在地	鹿児島県出水市六月田町360番地 (電話) 0996-64-8802
自己評価作成日	平成31年2月6日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成31年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長年、地域医療に貢献してきた医院を母体として、国道447号線沿いの同敷地内に平成20年4月に開設しました。
利用者様の身体状況に変化が起こった際に、多職種への相談や治療が受けられるよう連携を密に行い、安心して過ごしていただいております。
またデイサービスと併設し、一緒に季節の行事を行ったり、慰問に来ていただき楽しまれています。
食事に関しては、管理栄養士の指導の下、バランスの取れた食事内容となっており、一人一人に合った食事の提供を行っています。また、調理の協力をもらうことで利用者様とのコミュニケーションを図る機会が多く取れています。
医院の裏手には田んぼや山々が連なり、天気の良い日には散歩に出て景色を眺め、芝生のスペースやデッキでお茶やレクリエーションを楽しまれるよう、外へ出る機会を多く作れるよう努力しております。
また、事業所の理念である「触れ合い・技術・共有」をケアの取り組みを軸とした介護を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

気分転換のため、季節の花見やソーメン流し、ドライブ等、少なくとも毎月1回は外出計画を立て出かけている。また、ホーム周辺にスーパーやレストラン等の商店が立ち並んでいることもあり、日常的に買い物や外食に出かけやすく、当日、利用者の希望する外出先に出かけることも多くあり、楽しみになっている。

隣接する母体医療機関をかかりつけ医としている利用者が多く、毎朝の申し送りも母体医療機関で実施しているため、利用者の身体状況を十分に把握することができ、利用者や家族の安心につながっている。家族が受診に同行する場合は、普段の体調等状態が医師に伝わるよう、情報を提供している。

思いや意向の把握については、入居前に担当していたケアマネージャーや医療機関からの情報も参考にしながら、表情や仕草等、日々の様子を十分に汲み取りながら理解と把握に努めている。日々の様子や状況報告については、個別の申し送りノートに記録し共有し、夜間の様子やバイタルについては、夜間用の申し送りノートを用意し記録している。

勉強会を兼ねたホーム会議を毎週実施するほか、年2回個別面談を実施し職員の意見を聞いている。また、施設長や管理者は、日頃から職員の意見に耳を傾けており、意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎週、唱和し理念を基にしたケアが実践できるよう意識付けを行っています。	週1回併設するデイサービスと合同で朝礼を行い唱和している。理念にある「共有」を意識し、利用者とのふれあいを大切に考え支援につなげており、概ね理念は現状に即していると考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体に加入している。 地域のボランティアの方が来られたり、地域住民の方との繋がりを大事にしています。	自治会に加入し、地域の清掃活動や神社の祭りに出かけ交流するほか、散歩や買い物に出かけた際に地域住民と挨拶を交わしている。また、保育園児による慰問や中学生の職場体験の受け入れ、隣接するデイサービスとも積極的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	施設見学や電話での相談を受けたり、医院に来られた方の相談窓口としています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一回開催し、自治会長や利用者ご家族へ現状報告し、意見交換の場となっている。	会議には利用者や家族、民生委員、行政職員、管理栄養士等が参加し、活動内容やヒヤリハット等について報告している。また、民生委員から地域行事の案内や意見をもらうことも多く、参加者で話し合い、サービスの向上に反映させている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて報告したり行政主催の行事などへ参加している。	行政とは要介護認定の更新や相談事がある時等、随時電話や出向く等連携している。また、行政主催の研修会に参加したり、地域包括支援センターとの連携も図れており、利用者の暮らしぶりを伝え協力関係を築くことができている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会が中心となり身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する指針を設け、身体拘束廃止委員会による話し合いを3カ月ごとに開催している。言葉による拘束について繰り返し話し合うほか、見守りを徹底させることで自由な暮らしの支援につなげている。職員の言葉遣いが不適切な場合は、職員同士がその場で注意し合うなど、お互いに気を配り対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行うことで一人一人が意識し行動できるよう気を付け虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について施設内研修を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者様やご家族へ説明し、理解されていることを確認し、納得いただいたうえでの契約を行っています。 退所時も同様に利用者様やご家族様へ説明しご理解をいただきながら解約の手続きを行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には外部へ意見や相談が出来る事をお伝えしている。 福祉サービス運営適正化委員会のポスターに相談・苦情責任者の氏名を記入し玄関に掲示している。	家族が面会に来られた際は、必ず職員が近況を報告するようにしている。また、年1回開催する家族会では多くの家族が出席され、意見をもらうとともに、「お便り」に担当職員のコメントを添えることで、意見や感想、要望等を聞き取ることができおり、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週行われるホーム会議や年に二回行われる個人面談、その他にも日頃から積極的にコミュニケーションを図るようにしている。	申し送り時や週1回実施しているホーム会議のほか、年2回個別面談を実施する中で職員の意見を確認している。また、日頃から管理者や施設長が職員の意見に耳を傾けており、職員も自由に意見を伝えることができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を通してスタッフの働き方や資格取得の相談、有給の取り方など、ゆとりをもって働けるように職場環境の設備に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回の施設内研修、毎週行われる医院との合同勉強会に参加し、多職種との勉強会を通して介護・医療の知識を身につけられるようにしている。また施設外での研修へも参加することを勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や地域への社会参加を通して他事業所との関りを持ちサービスの質の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、本人との会話で出てきた言葉を記録に書き止め、本人が安心して生活できる様にスタッフ間で情報を共有し関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にご家族との会話で要望を聞き思いを受け止めるように努めている。また、リスクについてもご家族が理解されるまで十分に説明している。話に出てきた内容は全スタッフで周知するように個別の申し送りノートを活用し関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族様より心身の状態を把握出来るように聞き取りを行いアセスメントを実施しています。その内容から必要な支援などを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様一人一人の担当を決め馴染みの関係性を作ることで信頼関係の構築を図り、意思の表出が出来る環境作りを行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、又は必要な時はご家族へ相談しスタッフ、ご家族と協力しながら利用者様を支えています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別でお墓参りに出かけたり馴染みの方が面会に来られたり関係が途切れないよう支援しています。	これまでの馴染みの関係を記録し、電話や手紙の取り次ぎのほか、美容室やお墓参りなど個別に希望する外出先に家族と職員が協力して出かけている。また、家族や知人等、来客時にはお茶を出し、居室でくつろいでもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席を決める際には気が合う方々を近くにしたり必要に応じてスタッフが介入し話題を提供しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退所されたり他施設へ入所されても必要に応じて利用者様やご家族様からの相談援助や支援を行っている。スタッフも退所された方への面会を継続している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関りの中で一人一人に寄り添い傾聴する時間を大切にしている。	入居前のケアマネージャーや病院からの情報も参考にしながら日々の様子観察も含め思いを汲み取るようにしている。把握した内容は、内容別に用意した申し送りノートに記録し、申し送り時等に確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを作成し生活歴や生活環境の把握に努めている。又、利用者様との会話で昔のお話が出た際には記録に残しスタッフ間で情報の共有を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や生活日誌に毎日の記録を残し現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族様に面会時や電話連絡で意見を尋ねながら介護計画を作成している。計画作成担当者、スタッフでミーティングを行いサービスの計画を立てている。モニタリングを毎月行い評価を3カ月おきに行っている。	利用者や家族の思いや意向を基に、担当職員の意見や主治医からの情報も参考にしながら介護計画を立てている。利用者の状態や家族の思いに変化がみられた場合等、速やかに介護計画を見直し、担当者会議を経て関係者で共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤者の申し送りにてその日のスタッフが共有できるようにしている。また、いつもと様子が違うときにはケース記録に残し、特に利用者様の言葉を残すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族の状況や要望に応じ個別レクリエーション、全体レクリエーション、外出援助など出来るように努めている。医院のOT、PTにも見ていただき多職種との連携を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スタッフ間で情報を出し合い、より豊かな暮らしが楽しめるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様やご家族の希望を大切に、入所前のかかりつけ医受診も継続しながら、入所後も適切な医療が受けられるよう支援しています。	母体医療機関をかかりつけ医としている利用者がほとんどであり、申し送りも病院で実施しているため、常に医師は個々の状態を把握することができている。他科受診の場合は日々のバイタル情報を家族から医師に伝わるようにしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝と夕方の申し送りにて情報の共有に努めています。 体調の変化が見られた際にはその都度、報告しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際には心身の状況や日常生活、内服など報告を行ったり早期退院に向けて相談をしている。 入院中はスタッフが面会に行き様子や状態を伺っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、将来に向けた本人様やご家族様の意向の確認を行い、施設で出来る事、出来ないことの説明を行い、同意いただいている。	「重度化した場合の対応に関わる指針について」「終末期の対応に関わる指針について」を、それぞれ入居時に説明し、同意を得ている。現在、看取り支援は行っていないため、研修は未実施であるが、今後は重度化した場合を考慮し、研修の必要性について検討していく意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時は意識レベル、外傷の有無、バイタルなどを確認し施設長への報告をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練、ホーム内の避難経路図、各居室入口には移動手段のイラストを貼り、地域との協力体制も築かれている。	年2回、夜間想定を含む火災訓練を併設する母体医療機関とデイサービスと合同で実施している。訓練には緊急連絡網に民生委員の氏名を登録し、参加してもらうとともに近隣の商店にも避難時の支援が得られるよう協力体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の意向を尊重し本人様のペースに合わせた対応を心掛けています。	プライバシーや接遇に関する研修会を年1回実施し、言葉遣いに十分気を配り日々接している。また、ボランティアの方への守秘義務の説明や個人カルテの保管、ポータブルトイレにカバーを掛けておくなど、プライバシーに配慮してる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より利用者様の意向にそったケアを行うことで意思の表出、自己決定が出来る環境作りを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課にとらわれず個別での対応や日頃の会話の中で好まれることなどの情報を収集し、希望に添った支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自分で着られる衣類を選んでいたりそれぞれの利用者様がおしゃれを楽しまれています。行きつけの美容室がない方は月に一回の移動美容室を利用され身だしなみを整えています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週日曜の昼食やお誕生日には利用者様の好きなメニューを献立に入れたり一緒に料理をしています。日々のお米研ぎや野菜切り、お皿洗いなど一緒に行っています。	管理栄養士が立てたメニューを平日は母体医療機関で調理し、朝食と日曜日はホームで調理しており、日曜日の献立は利用者のリクエストに応えることが可能である。また、外食に出かけることも多く楽しく食事を摂っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に二回の栄養指導の下、主食の量や水分量、食事形態など一人一人に合った食事提供を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアの声掛けを行い、出来ない方は介助を行い実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	生活日誌による排泄パターンの把握に努め声掛けや汚染状況を確認し、清潔保持に努めています。	おむつやリハビリパンツを使用する方も日中はトイレでの排泄を基本としており、声かけやトイレ介助等、個々に応じて支援している。また、職員全員が共通認識の下で支援できるよう、ケアプランに組み込み対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活日誌により排便状況を把握し服薬による便秘や失禁予防に努めている。また運動を日課に入れたり定期的な栄養指導での相談を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	定期的な入浴予定は計画されているが、本人の意向を尊重し入浴日は柔軟に対応している。	週3回の入浴を基本とするが、希望があればいつでも入浴は可能である。片方のユニットにはリフトがあるため、介護度の高い方も安心して入浴することができる。また、入浴剤や冬至のゆず湯等、入浴が楽しみになるための工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人自由に居室へ行かれ自由な時間が過ごせるような環境作りが行えています。また、訴えが聞かれない方については心身の観察を行い、休息の時間を設けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を確認し、理解している。また服薬内容に変更があった際にはスタッフ間で共有を図り間違いのないよう気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家庭での生活の延長の場として家事など役割を持って取り組んでいます。嗜好品など利用者様やご家族様からの情報で継続しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の希望に添って買い物などの外出援助を行っています。お墓参りなどご家族の協力の下で継続、実施しています。	初詣や鶴見物、季節の花見や外食等、毎月外出計画を立て出かけるほか、個別に希望する外出先やドライブ、買い物等、当日行き先を決めて出かけることも多く、利用者の楽しみとなっている。また、歩行が難しい場合は、車椅子や車椅子対応車で出かける等、可能な限り支援できるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方には財布を持っていただいております。管理が難しい方には事務所で現金を預かり、必要に応じ手渡ししております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	年賀状や暑中見舞いなどを手作りのものを送っています。また、電話をしたいと言われた際には電話を使用しご家族などとお話をされています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	仲の良い方同士での席の配置、馴染みの環境作りをしています。お風呂場やトイレなどの共有スペースは手すりやバリアフリーで安心、安楽に使用していただけるよう環境整備に努めています。	フロアや廊下は明るく、畳スペースやウッドデッキで会話やお茶を楽しんでいる。共用トイレは車椅子の方の利用や介助スペースが十分確保された構造になっている。オール電化のため、万一に備え、自家発電機を備えている。日頃より空調に気を配っており、利用者が自室にいる時間帯に窓を開け、換気や掃除を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方と近くに座れる環境を作り、一人一人の思いで過ごされるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていたものなどをそのまま使用し居心地よく過ごしていただけるよう本人様やご家族にお伝えし持参していただいています。	ベッドやタンス、クローゼットや洗面台が備え付けられているほか、たんぼユニットにはトイレもありプライバシーに配慮している。また、椅子やテーブル、冷蔵庫を持ち込まれている利用者もあり、自由に過ごしてもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力や好きなことなど定期的に見直しを行い、出来ることが維持できるよう支援しています。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない